



誰もが不自由を感じない空間

大阪教育大学附属平野中学校 1年

かさ い み すず
笠井 美鈴

父の職場では、障がいのある方や高齢の方のために工夫が施されていました。

1つ目は、階段の横に備わっているスロープです。このスロープがあれば、車いすの方や足が悪い方でもゆっくりと安全に上り下りができるので、転倒などの事故防止になります。スロープは、傾斜が緩やかで幅も大きく作られており、使いやすそうでした。そして、玄関から室内につながる微妙な段差も、すのこの板をはめておくことで、スリッパに履き替える時につまずくことがないようにしています。すのこは、段差に合わせた特注のものだそうです。

また、お手洗いも一般的なお手洗いより広々とした空間になっています。それは車いすの方が動いても不自由がないように考えての設計だそうです。車いすでぐるりとひとまわりできるスペースを確保しているそうです。便座の横には小さな手すりもついていました。この手すりがあることで、壁や不安定な部分に手をつかなくてよいので、より安全だと思いました。

その他にも、玄関口から待合の椅子に座るカーブには短い手すりが設置されていました。

椅子に座る時も立ち上がる時もこの手すりが活躍しているようです。そして、全てのドアは引き戸になっています。握りやすい大きな手すりがついていて、軽い力で開け閉めができるように工夫されています。

私の父の仕事場は、障がいのある方や高齢の方が不自由を感じないように沢山の工夫がされていました。これらの工夫は、障がいのある方や高齢の方にとどまらず、どんな人でも便利に感じることができると思います。それぞれがそれぞれの立場に立って工夫をすることが大切なのだと思います。これからは、今までなにげなく利用していた公共のスペース、学校での環境を改めていろいろな立場から見てみようと思っています。みんなが便利に使えるスペースには様々な人が集まり、今までになかった交流や助け合いが生まれるかもしれません。そうなったら、とても素敵だと思います。



写真1 スロープ
車いすも通ることができるスロープ。緩やかな勾配で手前から手すりもついています。



写真2 トイレ
広く大きなトイレ。手すりが便座の両側についており便利です。



写真3 スロープ
建物の最後まで途切れず続く手すり。
また、スロープにぐらつきがないか定期的にチェックしているそうです。



写真4 コーナーの手すり
進行方向が変わる時、不安定になりがちなので取り付けられた小さな手すりです。



写真5 段差
小さな段差に備えつけられたすのこ。転倒防止につながるほか、下足にも便利です。